

2017 年度春の大セミナー 5th C 23 番テーブル 総評

文責：小下（明学4）、神田（武蔵4）

〈テーブルメンバーと順位〉

- 1 位：石井（獨協2）
- 2 位：櫻田（青学2）
- 3 位：花村（獨協2）
- 4 位：中野（高経3）
- 5 位：長井（高経2）
- 6 位：中嶋（明治2）
- 7 位：丸山（芝工2）

〈議論の流れ〉 文責：小下

~ASQ

石井のモデルオピシを土台として、議論が開始された。ASQ が終了するまでに、特に停滞することもなく、順調に議論が進み NFC に移る。

NFC

ここでは、長井による「脳死患者から臓器を取り出せば彼らが死に至る。」といった内容でのオブジェクションが出され、これについて検証していくこととなる。

いくつか定義確認などの Q が出された後に、石井の C により、脳死患者たちが死ぬことによって彼らの家族にデメリットが及ぶという長井の意見が明らかになり、櫻田の「それは、take plan したら怒ることだから DA で話そう。」という S に長井も納得して、検証が収束した。

Practicability

花村が出した「OP が提示した mandate は脳死患者の家族の意志を無視したものだ。」というオブジェクションのもとで検証に移った。

まず、石井の Q で「脳死患者の家族の意志を無視すること」と「praca が立証することはできない」。このリンケージが「違憲であるから」という花村の意見を確認した。続

いて石井が praca の定義確認を行い、DA で話そうという S で終結した。

次に櫻田が「SQ で臓器移植に関する法律が存在する」ため praca が成り立たないというオブジェクションを提示した。いくつかの問答がなされた後に櫻田が次に進む方法として、「この法律を廃止することを mandate に加えること」を S として提示しオピメである石井がそれに賛同して、この議論は終結した。

Workability

中野による「臓器に関する明確な情報を、臓器を欲している患者が知ることができないから AD はえられない」というオブジェクションのもと検証が開始。石井の C によって、今日の TG として「明確な情報を得られなくても AD を確立できる」ものとし、中野との間の違いを明らかにした。続けて、石井が、「花村が提示した TG は今日のものとは当てはまらず、1 つの DA として話そう」という S をだし、中野も納得し、議論は終結した。

次に櫻田の「脳死の定義を変えないなら、臓器の数が増えることはない」というオブジェクションの検証を開始。石井の C により、脳死を判断する試験内容も変わらない。同時に脳死患者の数も増えずに、同時に得られる臓器の数も増えることはないということが分かった。しかし、次にこの試験内容に関する問答が続き停滞を生んだ。この後にも石井が脳死の定義変更を S として出すが、どのように変えるかがうまくまとまらずに通らない形になってしまうが、続けて提示した反論によりこのエリアにおいての A/L/1 を確認したことで議論が終結して、AD を確認し終えたところでディスカッションが終了した。

〈順位と選定理由〉 文責：神田

1 位：石井（獨協 2）

オピメとしての役割をしっかりと果たし、質の高いカンファメによってテーブルへ意見を浸透させていました。また、サジェスチョンや話す手順の指摘によってテーブルを動かすことに貢献していたため、1 位とします。アッセンに向けて、相手の意見を汲み取ったサジェスチョンを心がけることで、最短距離での収集に挑戦してほしい。これからの活躍に期待しています。

2 位：櫻田（青学 2）

積極的にダウトを提示し、コンスタントに議論に参加していたため 2 位とします。質問

から生まれた疑問を速いスピードで提示しており、伸び代を感じました。しかし1位との差は大きく、オピメの主張と対立させるようなアプローチを心がけることで論点としてテーブルに落とし、自ら議論を進めることに挑戦してみてください。

3位：花村（獨協2）

クエスチョンやプラカでのアーギュを評価し、3位としました。検証をスムーズに進めるためにも、自分の主張における軸を自分から提示していきましょう。また他者への介入を増やしていくことで、テーブルへの貢献度が上がっていくので常に疑問を持ちながら議論に参加してみてください。

4位：中野（高経3）

クローズQでの介入とワーカでのオブジェクションによって4位とします。プレゼンが足りないと感じました。オブジェクションにつながるような質問の仕方に工夫したり、オピメの意見と対立させることで意見が浸透しやすくなるので挑戦してみてください。

5位：長井（高経2）

NFCでのオブジェクションがありました。4位の長井さんと同じく、プレゼンが十分ではないように感じました。×recover だから mandate とっても×UQ だよねってことを自分から伝えると理解もしやすく、スムーズに進行したと思います。

6位：中嶋（明治2）

介入が限定的でした。v/pによる違いを指摘していたり、話の内容は理解していたようなので、カンファメを通してテーブルへ落とす練習をしてみてください。

7位：丸山（芝工2）

介入があまりみられませんでした。ふとした疑問から発言していくことで、論題に対する自分なりの意見を見つけてみてください。